

ANM176 使用者アフターサービスについて

ANM176®が日本に紹介されてから16年、ANM176®が認知症の予防やアルツハイマー病の改善に役立つことが臨床試験で確認されてから11年が経ちます。

ANM176®はフェルラ酸とガーデンアンゼリカ根抽出物を配合した食品用素材で、漢方生薬のトウキに含まれるアミロイドβ神経毒性*を抑制する13成分が一定量含まれるように管理されています。この管理用法にはノウハウがあり、フェルラ酸とガーデンアンゼリカ根抽出物を配合したと称する他の商品にはANM176®と同等の効果はないはずです。

※アルツハイマー病の原因タンパク質と考えられているアミロイドβがどのようにして認知症を引き起こすのかは解明されていませんが、特定形態のアミロイドβには記憶力や学習を阻害する神経毒性があります。

「ANM176 使用者アフターサービス」(以下ではアフターサービスと言います)は、2019年の9月からANM176商品(ANM176®を使用した株式会社エイワイシーの商品)を利用されている方に対してご案内をしてきましたが、これからは、ANM176商品を利用したことがない人にもご案内をしていきます。このアフターサービスの20問からなるアンケート結果の推移によって、ANM176®の効果を利用者自身が確認できます。

高齢になると記憶力だけでなく認知機能も低下します。記憶力が低下しても認知機能が正常であれば日常生活に問題はありません。認知機能は、いわば勘のようなもので、日常生活には必須です。認知機能が病的に低下して日常生活も困難になった状態が認知症です。認知機能は、記憶力とは異なり分りにくいものです。認知症専門医は、臨床の経験をベースに認知症評価尺度(CDR)という基準を用いて認知機能の状態を判断します。

2018年5月から開始した「ANM176 使用者の記憶力・認知機能チェックサービス」(以下ではチェックサービスと言います)は、認知機能の状態を家庭でも推察できるアンケートです。しかし、このチェックサービスのアンケートは80項目に✓を入れる必要があります。時間と手間がかかります。そこで、精度は落ちますが20項目に✓を入れるだけのアフターサービスアンケートが工夫されました。アフターサービスアンケートの1回だけでは認知機能の状態は分かりませんが**、何回かの結果を比較することによって、認知機能の変化を読み取ることができるはずです。

※※アフターサービスアンケートの結果は、医師による診断とは異なります。

認知機能の状態は、本人と生活を共にしている家族が分かっており、医師もCDR評価で家族からの問診を参考にします。高齢になると記憶力の低下は誰にでも生じますが、知っているはずのことが、まるでそんなことはなかったように言ったり振舞ったりすることがあります。このように、本人がおかしいと家族が日常の生活の中でしばしば気づきますが、それを数値にして記録する手段がないため、そのうちに頻繁に起こるようになり、いつの間にか認知症と診断されることとなります。認知症と診断されても、現在の医薬品では1年程度だけ進行を抑制できるだけで、何年も掛かって進行する認知症にはあまり役立ちません。この医薬品による抑制効果は認知機能を改善するのではなく、その医薬品を使わない場合に比較して進行が抑制されたという臨床試験に基づくもので、その効果も一部の人だけです。

認知症のほとんどは遺伝とは直接的な関係はなく、高齢になると本人の資質に環境やライフスタイルの変化が発症に関係するようになると言われていています。食事や軽い運動など日常生活を改善することが認知症の予防や改善に役立つはずですが、これらの方法の利用者が確認することが重要で、アフターサービスアンケートの結果を活用することができます。

もう一つ重要なことは、どんな方法でも半年以上は試してみないと本当のことはわからないことです。認知症に関係する方法はプラセボ効果(実際には効果がなくても効果を感じる)が強く、6か月以上が経たないとプラセボ効果がなくなることが、様々な臨床試験の結果からうかがえます。このため、認知症に役立つと試した方法の記録を長期間付け、変化を観察することが重要です。